

『個人的なことも社会的なことも 話し合う場所づくり』

ひとりひとりとの対話から広がるつながり、女性と仕事

2024年2月20日

竹中万季（たけなかまき）

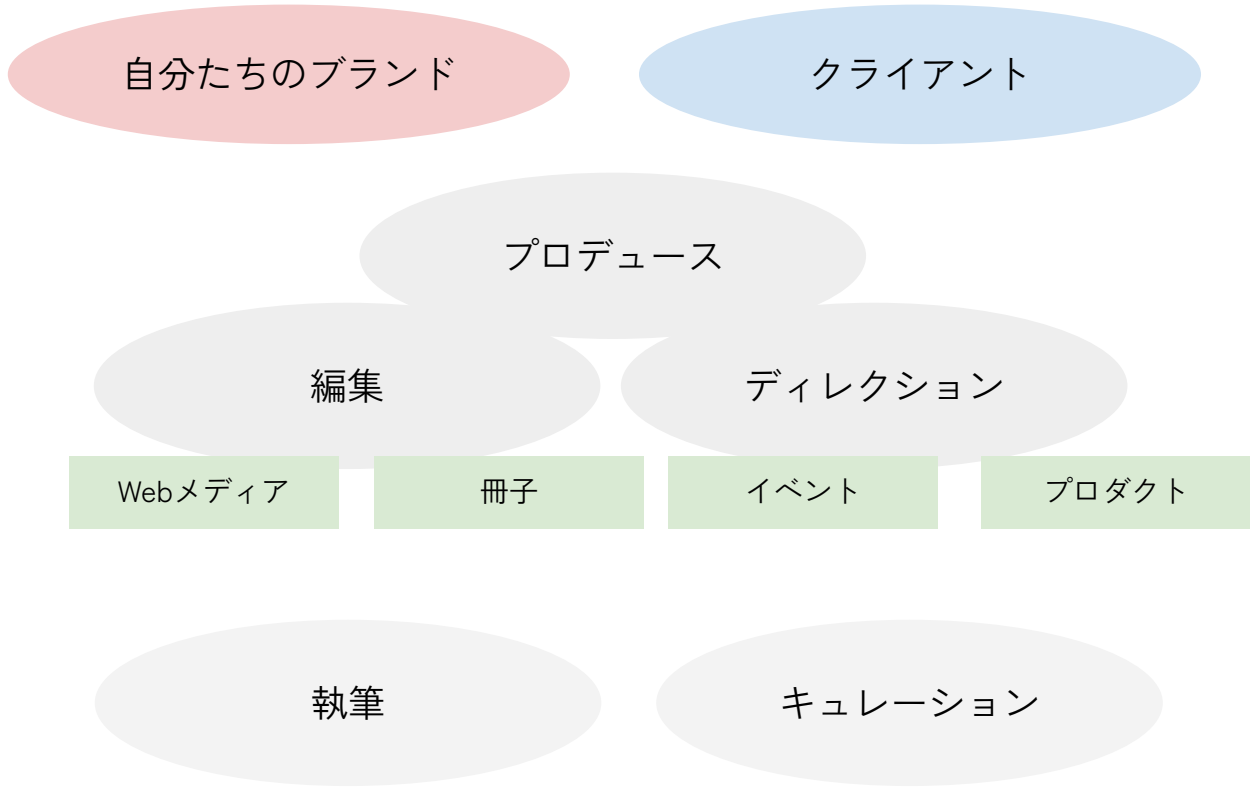


1988年、東京生まれ。編集者。小中高と都内の女子校に通ったのち、慶應義塾大学文学部美学美術史学専攻を卒業。その後、電通レイザーフィッシュ（現：電通デジタル）に就職。

デジタルマーケティングやWebディレクションなどに携わったのち、2015年にカルチャー系メディアを運営するCINRAに転職。カルチャーを軸にしたクライアント案件の企画・プロデュース、コンテンツ企画・記事制作などを多数担当する。2017年、同僚の野村由芽と共に「自分らしく生きる女性を祝福するライフ&カルチャーコミュニティ“She is”」を立ち上げ、ブランドリーダーとしてプロデュース・編集を行う。

2021年、野村と独立し、「me and you」を設立。「ここにいるわたしとあなたから、遠くのわたしとあなたへ」というメッセージのもと、当たり前とされているものを問い直す編集視点を軸に、メディア・コミュニティ「me and you little magazine & club」の運営や、社会が抱える課題について企業や団体とともに考えるプロジェクトに取り組んでいる。

どんな仕事をしているか？



we are happy to send you magazine & letters コーヌレターをお届けします

and

you

instagram happy to send you our newsletters

ニュースレターをお見

me and you little magazine & clubについて

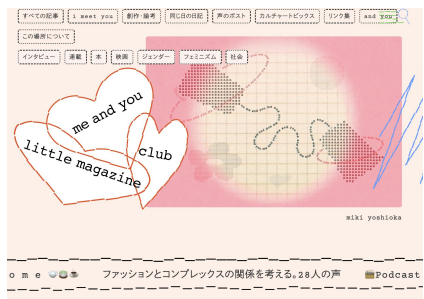


ここにいるわたしとあなたから、 遠くのわたしとあなたへ

me and you little magazine & clubは、「わたし」と「あなた」という小さな主語を大切にしながら、小さな違和感も幸福もなかったことにせず、個人的な想いや感情を尊重し、社会の構造まで考えていく場所です。

ひとりひとりの声や対話、作品を集めて記録する「little magazine」と、安心して話しはじめることができ、信頼できる人が見つかるかもしれない「club」というコミュニティのふたつの軸で場所をつくっています。

<https://meandyou.net>



<メディア>

me and you little magazine

わたしとあなたの記憶と記録、
動き続ける世界の一角

me and you little magazineは、小さな声や、語られていなかったこと、ものごとの複雑さなどを重視しながら、変わりゆく自分や他者、世界を考えるきっかけとなる読み物をつくっていきます。「I meet you」「同じ日の日記」「創作・論考」「声のポスト」「わたしたちのリンク集」「わたしたちの辞書」「カルチャートピックス」などをお届けしています。

2022年2月にオープン。
<https://meandyou.net/>

<コミュニティ（有料メンバー制）>



me and you club

わたしとあなたの終わらない
思索とおしゃべり

me and you clubは、曖昧さや迷いの過程、一人ひとりにとって心地よい速度を肯定することで、安心して話しはじめられ、信頼できる人が見つかるかもしれないコミュニティです。本や映画の話をしたりDIYを楽しんだりするクラブ活動、日常の違和感や社会問題への気づきを語り始めるイベントなど、生活も社会も地続きに一人ひとりが思考をめぐらせ、共有しながら、個人的なことと社会的なことについて考え、語る場所。

2022年2月にオープン。
<https://club.meandyou.net/>

me and you little magazine

すべての記事

i meet you

創作・論考

同じ日の日記

声のポスト

カルチャートピックス

リンク集

and you

この場所について

インタビュー

連載

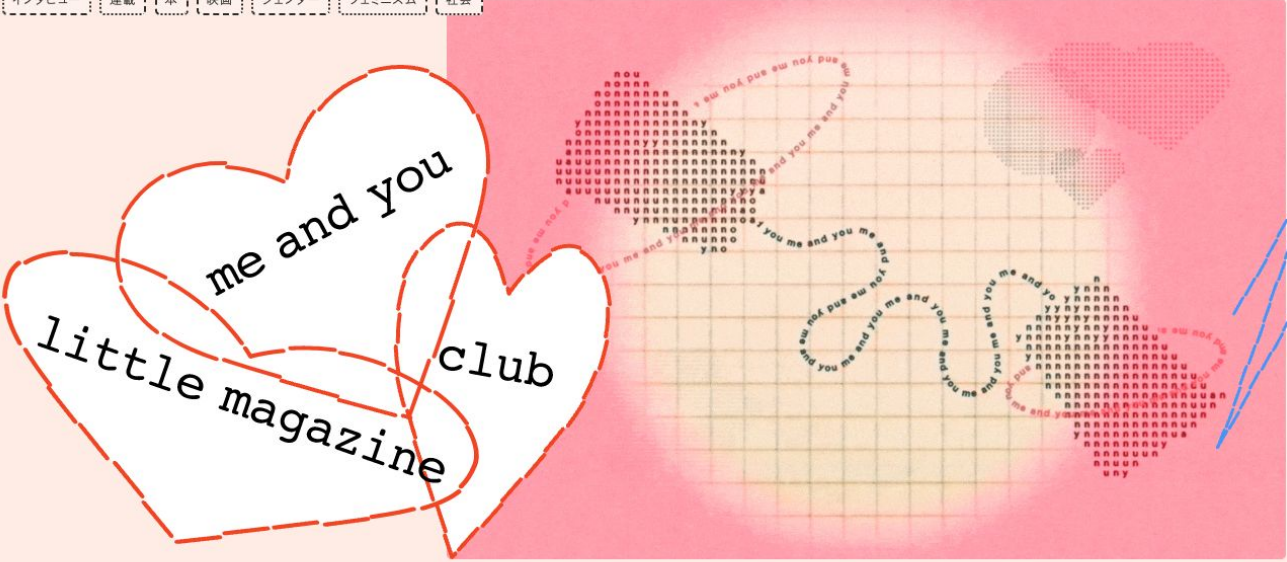
本

映画

ジェンダー

フェミニズム

社会



miki yoshioka

ou からのお知らせ

📧

新緑の季節

🌱🌿

💖💖

イ・ランさん、「強くならないと生きられない社会」で問う。「あなたは怎么样って生きているんですか」

大学生から50代以上まで、年代やジェンダーを問わず
下記のような関心が持つ方々が訪れてくださっています。

- 社会課題に対して意識を持っている人
- 映画や音楽、本やアートなどカルチャーを通じて
物事を考えることが好きな人
- 個人の思いや自分が好きなものを大事にしている人

また、me and youでは、トランスジェンダー差別、性的マイノリティへの差別
を含むあらゆる性差別、人種・民族差別、階級差別、病気や障害などに対する
差別、職業差別、地域差別、容姿や外見による差別などすべての差別に対して
反対する意志をもち、この場所を運営していることを掲げており、そうした思
いを共にしてくださる方にお越しいただいています。

このページをシェア

me and you
little magazine

連載

オフ会@彗星の見える交差点

連載:プラトニックな光で満ちた窓が見えるよ
/水沢なお

2023/12/20

このページをシェア

me and you
little magazine

本屋B&B(東京・下北沢):連載
「あの本屋に行こう」

「偶然の出会い」を街ゆく人の日常の中に生み
出すべく手を尽くすこと

2023/12/20

our sleepover

わたしたちのスリープオーバー

ヒグチアイさんに聞く。「性」に
関するおすすめ作品」「不安な
とき、どうしてる?」

『神風怪盗ジャンヌ』/自分が好きになれ
ものを常に探す

2023/12/15

me and you

台北のクィアによるクィアのた
のパーティー。Queer Tras
Taiwan主催・パイロンに聞
く

ユーモアとノスタルジアで拘束に抵抗。ク
安心して集える場所

2023/12/15

our sleepover

わたしたちのスリープオーバー

たかはしほのかさんに聞く。「性」
にまつわるおすすめ作品」「不安
なとき、どうしてる?」

大森晴子「絶対少女」/本当に今、自分に必要
な不安なのか問いかける

2023/12/15

our sleepover

わたしたちのスリープオーバー

「クリスマスの過ごし方って?」

Homecomingsのお二人と「クリスマス」に
いておしゃべり

2023/12/13

our sleepover

わたしたちのスリープオーバー

「彼氏いる?彼女いる?と聞かれ
て嫌だったことある?」

恋愛の話をしたい人、したくない人、したいと
き、したくないとき

2023/12/13

クラウドファンディングにて立ち上げ

メディア／コミュニティを立ち上げるにあたり、クラウドファンディングを実施。
目標金額の350万円を上回る結果となり。

また、アーティスト・クリエイター・タレント、研究者・アクティビストなど、表現・芸術・創作や社会問題にかかわる
さまざまな方々に賛同人になっていただき、応援コメントをいただきました。

<https://motion-gallery.net/projects/meandyou>

あらゆる個人の祝福を考えるメディア・コミュニティ「me and you」の立ち上げをクラウドファンディングで実現！

MotionGalleryについて

プロジェクトを探す

プロジェクトを始める



MOTION GALLERY
クラウドファンディング・プラットフォーム



わたしもあなたも生きている心地を。
対話から始める「me and you」の新メディア・コミュニティ

📍 東京都 🗺️ コミュニティ



コレクター

423人

現在までに集まった金額

4,140,457 円

残り日数

0 日

FUNDED

このプロジェクトは、目標金額3,500,000円を達成し、2022年
2月10日23:59に終了しました。

▼賛同人の方々

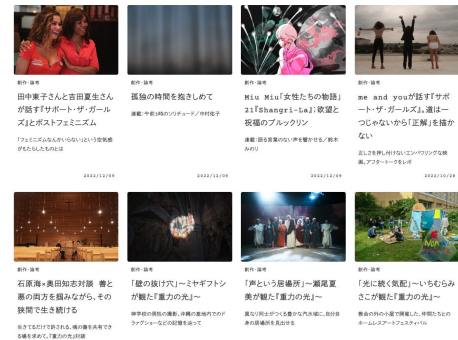
赤澤える／燈里／aggggggg／秋田祥／朝弘佳央理／朝吹真理子／安達茉莉子／あっこゴリラ／あないすみやーそ／阿部洋子／安藤晶子／安東嵩史（TISSUE Inc.）／飯嶋藍子／飯田エリカ／池野詩織／石山蓮華／伊波英里／今橋愛／YeYe／石澤萌／石田真澄／石村美沙都（J-WAVE）／市川渚／市原えつこ／伊藤絵美／伊藤紺／いとうひでみ／犬山紙子／井上花月（Laura day romance）／植本一子／UMMMI.／遠藤麻衣／大島智子／大谷明日香（REING）／丘田ミイ子／小澤みゆき（作家の手帖）／枝優花／エミリー／大北栄人（明日のアー）／大崎清夏／大堀晃生／長田杏奈／小澤身子和子／小谷実由／柿沼あき子／笠井康平（作家の手帖）／カシワイ／カトートシ／カナフユキ／Kaho Iwaya（opnner）／川上未映子／苅田梨都子／きくちゆみこ／岸本佐知子／北田瑞絵／黄身子／Camp Inc.／金城小百合／木村びおら／楠田ひかり／工藤まおり／黒井いづみ／劇団雌猫／小泉綾子／後藤あゆみ（bouquet TOKYO）／小菅くみ／小林エリカ／こばやしのだみ／小指（小林紗織）／合田文（パレットーク編集長）／強瀬早穂莉（J-WAVE）／近藤佳奈（fermata inc.）／最果タヒ／坂上陽子／相楽園香／佐久間裕美子／zaziquo／佐藤文香／佐藤まりか／猿田妃奈子／澤木美奈（Camp Inc.）／塩川いづみ／塩塚モエカ／芝山有香／島根由祈（YUKI SHIMANE）／清水淳子／祝茉莉／白石洋太／辛酸なめ子／菅原万有／杉田ばん／鈴木みのり／生物群／瀬下翔太／惣田紗希／ソノダア／高木絹子（J-WAVE）／鷹取愛（山ト波）／武田砂鉄／武田俊／竹田ダニエル／武居詩織／橘優子（花屋「橘」）／たなかみさき／田中菜裕／多屋澄礼／垂水萌／チーム未完成／チョーヒカル／つめをぬるひと／DAY・DREAM／nene／寺尾紗穂／寺原真希子／寺本愛／富沢櫻子（ekot spectrum works）／ドミニク・チェン／NINE STORIES かとうさおり／中里虎鉄／長島有里枝／永原真夏／永峰拓也／中村秀一（SNOW SHOVELING）／中村桃子／夏目花／七／7A／西口想／能町みね子／灰色ハイジ／はくる／羽佐田瑠子／秦レンナ／初谷むい／花盛友里／林央子／はらだ有彩／haru.（HUG）／肥高菜実／日比菜那／平岩壮悟／平山潤（NEUT）／藤岡みなみ／藤澤ゆき（YUKI FUJISAWA）／藤原麻里菜／古本実加／穂村弘／堀静香／前田エマ／牧村朝子／松井友里／Marina Gokan（GRRRDEN）／万力春乃／見汐麻衣／MIOKO／MICO／水内実歌子／みたらし加奈／MIDORI／宮崎智之／三好愛／麦島汐美／めぐみあゆ（BROTHER SUN SISTER MOON）／八木あゆみ／山口祐加／山崎まどか／山田由梨／山本華／yushokobayashi／横井もも代／横田 大（Camp Inc.）／よいしいちひろ／Yoshiko Kurata／吉野舞／Riku（REING）／龍崎翔子／Ryoko Kuwahara（NeoL editor in chief）／脇田あすか／The Wisely Brothers／和田彩花／和田朋子／

コンテンツ

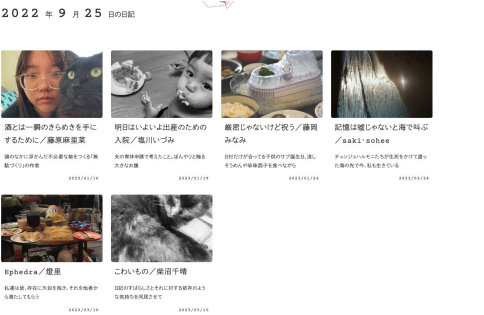
「個人的なこと」と「社会的なこと」の両方を考え、行動するためのさまざまなコンテンツを企画・制作。
ひとりのオピニオンだけではなく、複数の人たちから声を集め、
「手を取り合いながらともに考える場」を生み出し、発信をおこなっているのが特徴です。



i meet you：専門家や研究者に学びながら
me and youという場所を耕していくための枠



創作・論考：インタビューや対談に加え、詩人・歌人の方による創作、作家による連載企画なども実施。即時性だけではなく「創作・論考」がもちえる長い時間軸を大切にするような企画枠。



同じ日の日記：さまざまな場所に生きる、働き方も暮らし方も異なる個人に、異なる場所の同じ日の日記を書いてもらう。違うことと、同じこと、それぞれ重なりが見える枠に。



カルチャートピックス：自分たちが影響を受けてきた／好きな芸術・文化のイベント情報を紹介する枠。文化や芸術は社会にオルタナティブな可能性を提示するものでもあるという意思も込めながら。



声のポスト：同じテーマであってもたった一つの正解があるわけではない。一人ひとりの異なる考え方を並べてみることから、ものごとを考え始めたいと考え、一つのテーマをもうけ、複数名の声を集める企画枠を用意。公募も実施。

わたしとあなたのリンク集

必要人のもとに届いてほしいウェブサイトを紹介するリンク集。性暴力・性知識・働き方・仕事・ジェンダー・セクシュアリティ、文化・芸術ほか、カテゴリは随時更新しています。

からだ・性教育に関するリンク集 性差、性別・異性関係、性意識、性行為に関する情報など	性暴力・性知識に関するリンク集 悩んでいるときの相談窓口、知ることができそうなウェブサイト
ジェンダー・セクシュアリティに関するリンク集 悩んでいるとき、意識を知りたいとき	働き方・仕事に関するリンク集 正社員もアルバイトもフリーランスも、働き方と意識、相談窓口を知る
文化・芸術に関するリンク集 映画、音楽、アート、演劇、文芸、芸術に関する人にも役立つ人にも	

わたしとあなたのリンク集：問題に直面したときの具体的な手助けとなる支援・サポートの企画として。

インタビュー記事の例

このページをシェア

me and you club
little magazine

伊藤万理華さんが語る。「ちゃんと自分のことが嫌い」なまま、自分を大切に生きて生きる

「わたしにはなにがあるんだっけ」「なにもないかもしれない」の先に

取材・文：野村由華
写真：小本真知子
ヘアメイク：内山美穂
スタイリスト：黒田ミリ

2023/12/8

インタビュー 写真

SHARE: [Twitter](#) [Instagram](#) [Facebook](#) [LINE](#) をコピー



このページをシェア

me and you club
little magazine

川上未映子さんに聞く。40代以降に訪れた心身の変化と、光がきれいな今日を思いだせること

今をなんとか懸命に、迷いながら生きていくだけ

取材・文：野村由華
写真撮影：池田祐子
編集協力：日比菜那

2023/9/22

インタビュー 写真

SHARE: [Twitter](#) [Instagram](#) [Facebook](#) [LINE](#) をコピー



このページをシェア

me and you club
little magazine

斎藤真理子×中村佑子 煌々とした蛍光灯では照らせない声に耳を傾ける

韓国文学翻訳者と、社会からかき消されそうな存在の声を聞く作家

取材・文：野村由華
写真・宇野山奥入子
編集協力：谷口愛（河田書房新社）・青木能

2023/8/4

インタビュー 写真

SHARE: [Twitter](#) [Instagram](#) [Facebook](#) [LINE](#) をコピー



「話を聞く」ことは、日本のそこそこにあるありふれた行為ですが、「聞かれていない」という思いが心を震わせることがあります。そう考えると「聞く」を見つめなおすことが、人の思いや存在がそこに「在る」ことを肯定する行為にもつながるのかもしれない。

このページをシェア

me and you club
little magazine

金子由里奈×高島鈴 「わたしたちは全然大丈夫じゃない」、それでも生きていく

『ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい』監督と元同僚のライター、生を肯定する表現者たち

取材・文：岸野田聖
撮影：池田詩織
編集：竹中万寿

2023/6/21

インタビュー 写真

SHARE: [Twitter](#) [Instagram](#) [Facebook](#) [LINE](#) をコピー



映画監督の金子由里奈さんと、ライターでありアナウンサー・フェミニストの高島鈴さん。同じ年に3日違いで生まれたという姉妹の二人は、お互いの作品について深い敬意を表す表現者どうしであり、ともに暮らした経験を持つ元同僚でもあり、ます。

このページをシェア

me and you club
little magazine

世界や他者の「わからなさ」に言葉で向き合う穂村弘さん。夜中に水槽を運ぶ人へのシンパシー

抽象的、断片的、暗示的、象徴的な言葉が世界を組み替える可能性

取材・文：松井文恵
編集：野村由華

2022/3/21

インタビュー 写真

SHARE: [Twitter](#) [Instagram](#) [Facebook](#) [LINE](#) をコピー

ニュース

2024/5/30 「明日の朝まで、3月1日の日付を乗せます」

2024/5/26 HOTEL SHEL, NYUのクラウドファンディング企画「me and you and sue」を掲載

2023/5/12 me and youの25周年記念 message in a bottle が完成！一冊書店で販売開始

カルチャーピックアップ

📖 あっこゴリラ (MY LOVE MY CHOICE)

📖 あないずみ・やそ (TALK! AI-SHUB! プルムルのように)

📖 萩原みこ (JINA 8018) 新作発表会「コアの人」

📖 『日本の女性映画人(s) 1970-2020年代』

📖 『ゴーストロボビタ』here

→ 次を見る

このページをシェア

me and you club
little magazine

アナマリア・ヴァルトロメイが語る。女性や女優の身体に映し出された幻想からの解放

映画『あのこ』主演俳優に、山崎まどかがインタビュー

取材・文：山崎まどか
撮影・小森彩花
編集：野村由華

2023/12/21

インタビュー 写真

SHARE: [Twitter](#) [Instagram](#) [Facebook](#) [LINE](#) をコピー



日記の例



猫たちの2022年2月22日／
近藤聡乃

2022年2月22日(火)の日記

2022/03/24



布団カバー／和田彩花

2022年2月22日(火)の日記

2022/03/29



大人になっても正月がこわい
／永井玲衣

2022年1月1日(土)の同じ日の日記



「歌のあるところに希望がうま
れる」／寺尾紗穂

2022年3月11日(金)の日記

2022/06/15



坂の途中の水仙の花、ずっと
まえに見た花／小林エリカ

2022年3月11日(金)の日記

2022/05/11



主に八戸にいた／能町みね
子

青森にプチ移住。トラベラーズノートに郵便
局の風景印を押しながら、街を歩く

2022/11/25



誰にも出さない手紙と、見せ
られる日記／たなかみさき

私の日常は見ている人にとっては非日常なの
かも？

2023/11/14



酒とは一瞬のきらめきを手に
するために／藤原麻里菜

頭のなかに浮かんだ不必要な物をつくる「無
駄づくり」の作者

2023/01/16

連載記事の例

連載



OH! MY BOOKS (東京・幡ヶ谷) :連載「あの本屋に行こう」

おきまりの定食屋さんみたいな場所になれたら

編集 大島山保
リード文 野村由幸

2024/2/28

【本】 【連載】 【連載】 前田エマ、韓国にあらう

SHARE: URLをコピー

一冊の本に出会うことは、新しい扉をひらくこと、たとえば縁や心にもちやもやと繋がっているようなとき、世界の未知の側面を手を伸ばしたとき、胸に当たると、いつもは多かたに胸に付てみたいなると思ったとき……そんなとき、本屋を訪れてみるのがいいかな？

この記事では、me and youがおすすめしたい本屋さんをご紹介します。me and youが出版している小さな本を取り戻ってくださっている独立系の書店を中心に、自分の意見でお話を立ち上げたり、心地よい方法を工夫しながら、その土地に根づいた場所づくりを行っているお店たち、つくり手の表情が見える本屋は、そこに集まった人たちが想いや

連載



前田エマ、韓国の服にあう。ニッ トブランド「MISU A BARBE」 キム・ミスさん

連載:前田エマ、韓国の服にあう

文: 前田エマ
編集: 野村由幸

2024/2/28

【ファンタジー】 【連載】 【連載】 前田エマ、韓国にあらう

SHARE: URLをコピー

「生きていくの大変じゃないですか？」——そんな実感を出発点に、作家・ライターの前田エマのリスさんがこの社会で生活し、生き延びていくための方法を、さまざまないい人に関わっていく連載が始まりました。

連載



能町みね子さんと話したい。「生 きていくの大変じゃないです か？」

社会や政治の話は大事。けれど、トランスである人の生活はそれだけでは語れない

文: 前田エマ
編集: 前田由幸
編集: 野村由幸

2023/11/2

【ジャンル】 【連載】 【連載】 生きていくの大変じゃないですか？(前田エマ)

SHARE: URLをコピー

「生きていくの大変じゃないですか？」——そんな実感を出発点に、作家・ライターの前田エマのリスさんがこの社会で生活し、生き延びていくための方法を、さまざまないい人に関わっていく連載が始まりました。

連載



恋愛関係なしで、パートナーシ ップを築く実験

連載:呼びよのない暮らし／星野文月・有吉宣人

文: 星野文月、有吉宣人
連載:ジェノム・豊田裕希
編集: 野村由幸

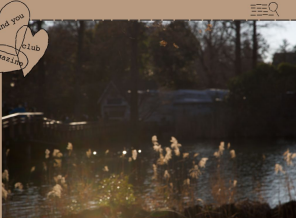
2023/7/27

【連載】 【連載】 呼びよのない暮らし／星野文月、有吉宣人

SHARE: URLをコピー

松本市で文筆を書きながら暮らしている星野文月さんと、俳優・ドラマタクト・演劇ワークショップなどの活動を行っている有吉宣人さん。4月から松本市で同居を始めることになった二人は、「恋愛関係ではない」という前提条件をお互いに交わして暮らしています。「男女が共に暮らす」ということが当たり前に恋愛・性愛関係と結びついているとされるなか

創作・短考



記憶のコルク栓

連載:午前3時のソリチュード／中村佑子

文: 中村佑子
編集: 谷口愛子(同愛書房新社)、野村由幸

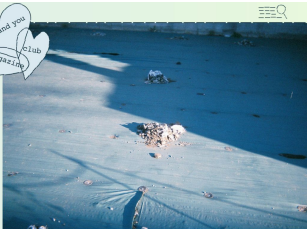
2023/2/24

【本】 【連載】 【連載】 午前3時のソリチュード／中村佑子

SHARE: URLをコピー

早めに就寝して、真夜中にもふと目覚める午前3時。映像作家の中村佑子さんにとってその時間は、日常の雑音や役面から解き放たれ、自分の中心と向き合う大切なひととき。そんな「午前3時」をテーマに、中村さんに日々のモノ・ローグを綴っていただきます。母である属性を指えながら生きる、ひとりの女性の折々の記録。ぜひお楽しみください。

連載



オフ会@彗星の見える交差点

連載:プラトニックな光で満たした窓が見えるよ／水沢なお

文: 中村佑子
編集: 星野文月(トリムニア)、野村由幸

2023/12/28

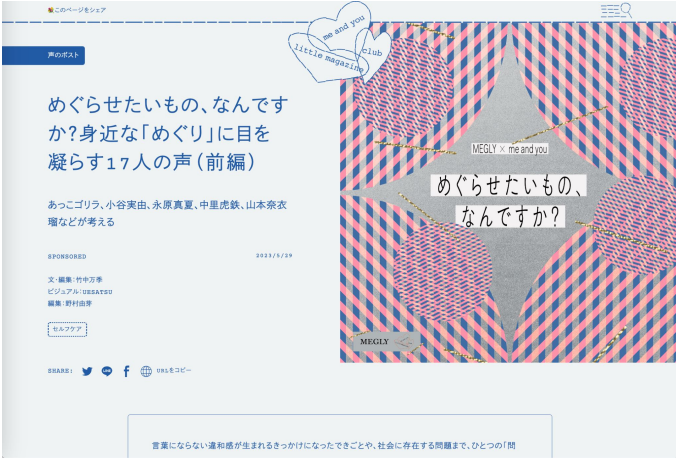
【エッセイ】 【連載】 【連載】 プラトニックな光で満たした窓が見えるよ／水沢なお

SHARE: URLをコピー

中京中出賞を受賞した第一詩集「美しいからだよ」に続き、「シー」うみみたりを発表している詩人の水沢なおさん。自分と他者のをけけうのない関係性や、人々ではないものを等しく愛しいと思う気持ち。「塵む」という行為へのアンビバレンスなどをテーマに言葉を織く、水沢なおさんのエッセイ連載が始まりました。

インターネットが身近にあった小学生時代からずっと見つめてきた自分の輪郭や、他者とのおい。そこにちのぼる、プラトニックな光とは……

タイアップ記事の例



me and you club



me and you club

わたしとあなたの終わらない 思索とおしゃべりを

me and you clubは、曖昧さや迷いの過程、一人ひとりにとって心地よい速度を肯定することで、安心して話しはじめられ、信頼できる人が見つかるかもしれないコミュニティです。本や映画の話をしたりDIYを楽しんだりするクラブ活動、日常の違和感や社会問題への気づきを語りはじめるイベントなど、生活も社会も地続きに一人ひとりが思考をめぐらせ、共有しながら、個人的なことと社会的なことについて考え、語る場所。

2022年2月にオープン、承認制、有料（月800円または1600円。一部無料のプランもあり）。現在150人以上の方が参加されています。

<https://club.meandyou.net/>



J-WAVE

わたしたちのスリープオーバー

Podcast番組『わたしたちのスリープオーバー』をme and youが企画・制作。この番組では「性にまつわることをいつもの自分の温度で話しはじめてみる」をテーマに、自分や相手のからだ、セックス、性差別、ひとりひとり異なるセクシュアリティ、ジェンダーアイデンティティ、してもしなくてもいい恋愛についてなど、さまざまなトピックを自分の言葉で話しはじめ、考えはじめてみる。ここは、気負わず、飾らずおしゃべりする、お泊まり会のような場所です。

誰と生きるか、どこで暮らすか、どうやって働くか、それらは人間が生きていく上での根本的な問いですが、20～30代を迎えると、さらに結婚や子どもをもつことの有無といった「ライフステージ」の選択（そこには制度上の問題で「選択できない」ことも含みます）を多かれ少なかれ迫られることになります。『わたしたちのスリープオーバー』では、その点において人生が大きく変化する状況にある20～30代の方々に届けることをもっとも意識しながら、個人の生き方が無数に存在するように、性にまつわる考え方も人の数だけあり、その考えのひとつひとつを尊重することを前提に番組を制作しています。

<https://spinear.com/shows/our-sleepover/>

本の出版・執筆



- ・『わたしとあなた 小さな光のための対話集』

フェミニズムやクィアの表象、メンタルヘルス、マチズモ、戦争、差別といったテーマをはじめとして、それぞれの分野で研究や発信を行っている方々との対話を収録した本。

- ・『me and you の日記文通』

me and youが隔週金曜日にお届けしているニュースレター「message in a bottle」で連載中の「日記文通」。me and you竹中万季・野村由芽がそれぞれ日記を書き、お互いの日記にお便りを書いてきた2021年4月から2023年2月までの記録をまとめた記録。

- ・『わたしを覚えている街へ』

三軒茶屋にある書店、twilightから刊行された本。三軒茶屋に3歳から30歳くらいまで住んでいたme and youの竹中万季が、twilight web magazineでの連載をきっかけに、近いようで遠かった三軒茶屋と新しい関係を築いていく。

渋谷パルコ

「パルコを広告する」 1969 - 2023 PARCO広告展 冊子制作

渋谷PARCO開業50周年を記念したパルコの広告表現を通覧できる展覧会“「パルコを広告する」 1969 - 2023 PARCO広告展”にて販売している冊子の編集を担当いたしました。

「2000年代以降」・「1990年代」・「1980年代」・「1970年代」とそれぞれ2人のゲストキュレーターを招き、対談形式でポスターやCMを選定。その選定の記録を、展示にて公開される映像とは異なる観点で掲載しています。パルコの広告がその時代においてどういった存在なのか、そしてそれぞれの時代背景が浮かび上がるような冊子となりました。

(デザイン：須山悠里)



スマルナ「#しかたなくない」雑誌制作

ピルのオンライン処方サービス「スマルナ」を運営する株式会社ネクイノと一般社団法人渋谷未来デザインが立ち上げたプロジェクト「#しかたなくない」。me and youは、2021年12月に第一号として制作された本プロジェクトのフリーマガジンの編集・制作に携わりました。

生理や避妊、性にまつわるさまざまなことをはじめ、学校や仕事、社会のことに対しても、気づかないうちに「しかたない」と諦めてしまっているものがたくさんある。そんな一人ひとりの「しかたなくない」を可視化し、マガジンやイベントなどのさまざまなコンテンツで発信していくこのプロジェクト。マガジンは渋谷109前でも配布され、大きな反響を呼びました。ジェンダーや性を取りまく課題に興味がない人にも届く間口をつくりたい、ポップカルチャーと絡めた企画も入れていきたい、教科書っぽく見えないようにしたい……などの与件を踏まえながらチームで議論を重ね、構成やコンテンツの方向性の議論から参加しました。

(デザイン：上西祐理)



学びを見つける、 わたしがみつける



新しい季節が過ぎていき、実りの季節がやってきた。
駆け抜けた心からだをいたわって、
ゆっくり深呼吸して、
自分を見つける時間をつくりませんか？

今の自分と向き合って、少し先の自分を想像してみる。
「こうありたい」と願う姿がもし浮かんだら、
近づくために、できることを考えてみたい。

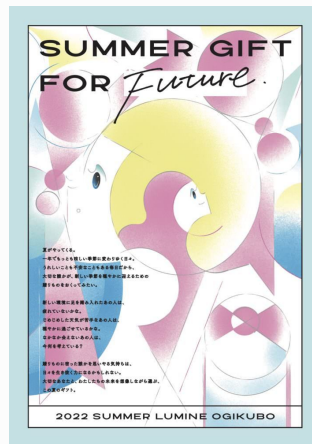
本を読む。勉強する。新しいことや、
興味があったことをやってみる。
小さなことから始めていい。何歳からはじめてもいい。
心地よい学びのかたちを見つけることは、一生の味方になる。
自分が求めるほうへと、変化するために学んでいる。

学びはきっと、わたしを新しい世界に連れて行く。
君よりも好きな、わたしに出会えるといい。

2022 autumn lumine ogikubo

ルミネ荻窪 年間のリーフレット制作

2022年度のルミネ荻窪のリーフレット制作を年間で制作いたしました。クライアントが求めるターゲット層や、打ち出していきたいテーマに沿って、コンセプトを設計。毎回のコピーライティングや、デザイナーやイラストレーター、モデルの選定のほか、スタイリングをいれた撮影企画や、エッセイ、商品紹介など幅広いコンテンツを展開。冊子を目当てに店頭を訪れる方も数多く、人気の企画となりました。
(デザイン：栗原あずさ)





地球と自分のためにできることって？『アースデイ東京』に聞く



xiangyu & 樹木医・片岡日出美と話す。樹木と健やかに生きていくためにできること



MEGLY&CO オウンドメディア立ち上げ・コンテンツ企画編集

MTGによる炭酸ブランド「MEGLY」のオウンドメディア『MEGLY&CO』の立ち上げに向けた企画を行いました。また、メディア内の一部記事の企画・編集・制作を行っています。

MTGは美容機器と化粧品を融合した商品を開発する美容ブランド「ReFa」などを生み出してきた会社です。あらたに生まれた「MEGLY」は、ウルトラ炭酸のテクノロジーをもとに一人ひとりが自分を大切にすることを願うセルフケアブランド。「自分を大切に、みんなを大切に」「こころ、からだ、人、社会、地球、様々なめぐりをよくして、みんなが光る世界と未来を目指す」というメッセージを掲げています。

男性・女性・ノンバイナリーなど問わず多様なジェンダーの方に届けていくためにデザインなども考慮してつくられていることや、環境負荷の少ない選択をするためにできることは何なのか真摯に向き合っているブランドの意志に共感し、その思いをプロダクトだけでなくメディアを通じて届けていくために企画に携わるようになりました。

個人的なことと、社会的なこと

竹中の興味関心と仕事のこれまで



中高生時代

- 小中高12年間女子校に
- 内気な性格、誰かで行うことが得意ではなかった
- インターネットが好き
- 音楽や映画、本などのカルチャーに救われた経験



大学時代

- イベントやフリーペーパーをつくるサークルへ
- 美学美術史学専攻、アートイベントの広報や展示企画などに参加
- イギリス留学
- 編集など、興味があることにどんどん試みしてみるように



広告業界へ

- ネット好きが興じて、デジタルエージェンシーへ
- 大きなプロジェクトに関わり、複数人でものごとをつくる面白さを知る
- 深夜まで働く日々
- 好きなものを忘れて「普通」を考えるなかで生じた違和感



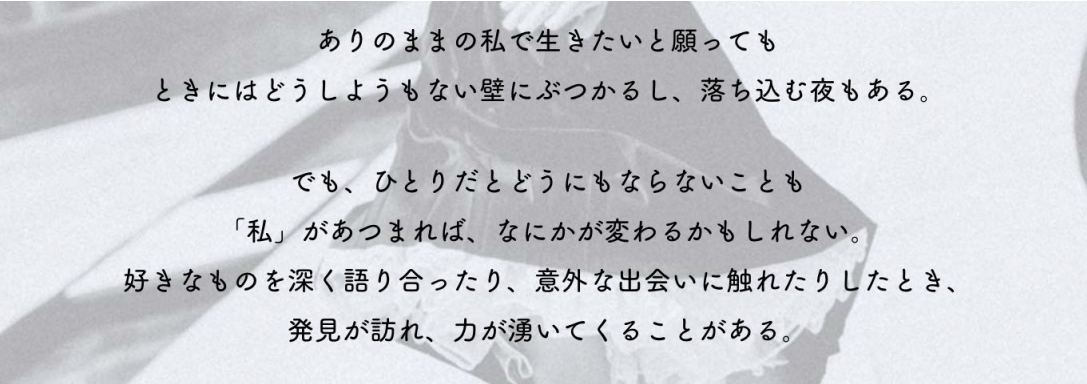
CINRAに入社

- 今までの経験を活かしながら、編集者への道へ
- 好きなもの、自分を活かしてくれたものが仕事に接続
- 引き続き、深夜まで働く日々



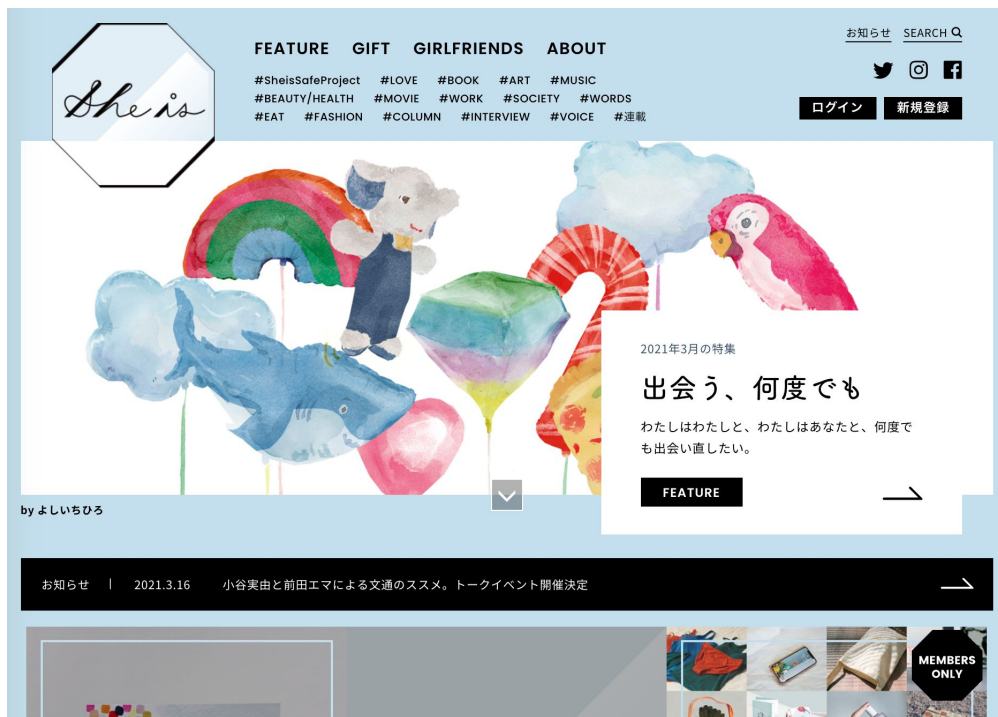
She isの立ち上げ

- 同僚との対話から始まった場所
- 押し付けられる「普通の女性像」への違和感と、映画や本や音楽などが教えてくれたもの
- 会社「こうした場所が必要だ」と提案し、新規事業として2017年にスタート



ありのままの私で生きたいと願っても
ときにはどうしようもない壁にぶつかるし、落ち込む夜もある。

でも、ひとりだとどうにもならないことも
「私」があつまれば、なにかが変わるかもしれない。
好きなものを深く語り合ったり、意外な出会いに触れたりしたとき、
発見が訪れ、力が湧いてくることがある。



She is

<https://sheishere.jp/>

2017年9月、me and youの竹中・野村でCINRA社内の新規事業として立ち上げ。She isは、自分らしく生きる女性を祝福するライフ&カルチャーコミュニティをタグラインに、女性をとりまくカルチャーや思想を伝える「ウェブマガジン」と、有料メンバーにお届けするコミュニティサービスを主軸にしたコミュニティメディア。

一人ひとりがその人らしいかたちで存在し、生き方や選択を自分で肯定していけるようになるために。ときめきや美しさを愛でる心を大切に、ときには詩的な感覚を通じて、社会や自分自身を問いながら、自由にのびのびと生きていく方法を育てていく場所です。

- ・特集を軸にしたウェブマガジン
- ・300人を超えるGirlfriendsとの深いつながり
- ・全国にいる1000人以上のMembers（会員）とのコミュニティ
- ・文章、作品、プロダクト。多様な表現

などを特徴とし、2017年に世の中の流れに先駆けてジェンダーの問題を取り上げたことや、サブスクリプションモデルを取り入れたこと、アーティストや文筆家など様々な領域で活動する女性たちとの継続的で深い関係性などが注目を集めました。

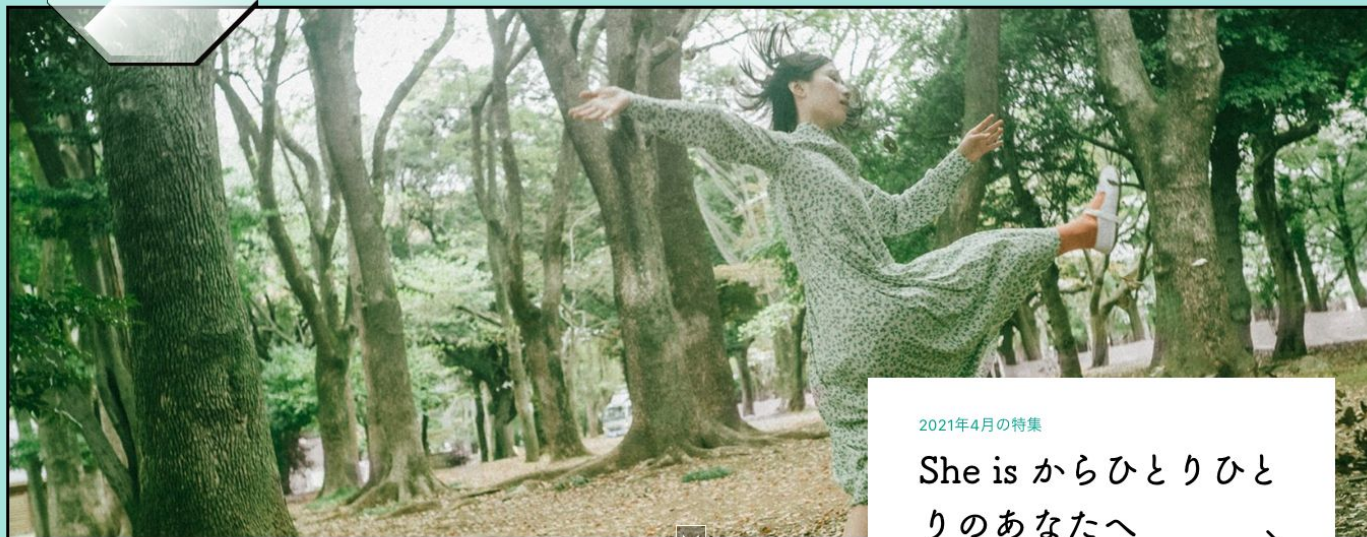
「me and you」では、この「She is」で大切にしてきた考え方や手法をあらためて見つめ、活かしながら、新たなメディア作りを行っています。



FEATURE GIFT GIRLFRIENDS ABOUT

お知らせ [SEARCH](#)

#SheisSafeProject #LOVE #BOOK #ART #MUSIC
#BEAUTY/HEALTH #MOVIE #WORK #SOCIETY #WORDS
#EAT #FASHION #COLUMN #INTERVIEW #VOICE #連載



2021年4月の特集

She is からひとりひとりのあなたへ

Dance: Nao Yoshigai, Photo: Takuya Nagamine, Styling: Miri Wada

お知らせ | 2021.4.1 【大切なお知らせ】2021/3/31をもってShe isはサービス終了・更新停止いたしました



FEATURE GIFT GIRLFRIENDS ABOUT

[お知らせ](#) [SEARCH](#)

#SheIsSafeProject

#LOVE

#BOOK

#ART

#MUSIC

#BEAUTY/HEALTH

#MOVIE

#WORK

#SOCIETY

#WORDS

#EAT

#FASHION

#COLUMN

#INTERVIEW

#VOICE

#連載

2017年9・10月の特集

「未来からきた女性」

同じ時代を生きなながらも、
まわりよりちょっぴり光る女性というのは
過去にも現在にも、きっと未来にも、いるのだろう。

彼女が見ようと願った行為によって
あるいは、彼女が見たかった世界のなかに
今、私たちが生かされているのだとしたら。

その人はきっと「未来からきた女性」だ。

2018年7月のギフト

相澤美さんにつくった熊に模したぴったりのギフト。小泉美奈さん、manganmamさんによる可愛いマップ、ピラミッドラヴ「She is TRIP」のCD、ネイル「Night trip」のネイル。

2018年6月のギフト

イラストレーター@kneeさんにつくった、互恵にあげるための靴のハンカチ。デザインが可愛い「moeji」の愛着とオリジナルコースター。特製のカートと運搬したShe is ナイロン。

2018年5月のギフト

正木ラファエルさんによる刺繍トートバッグ、ラファエル・エヴァンジェリスタのポスターアート、ユウカリのライフラグ。お風呂の時間を楽しくする入浴剤、おたまり箱したネイルなど。

2018年4月のギフト

はらた有彩さんにつくった熊に模したトラップ。いとうひかりさんによる「熊の爪の四つん坊」のaponeによる花束のタコカーン。安心で楽しいローションほか。

2018年3月のギフト

「HIGHER」(magazine) 編集長のhanyさんにつくったワッフル素材のシャツトップ、カワエさんが描くイラストのカード。お泉美奈さんが手がけたコースター、世界の音楽、ネイル。

2018年2月のギフト

EMILY WHEATXさんにつくったワッフル素材のシャツトップ、カワエさんが描くイラストのカード。お泉美奈さんが手がけたコースター、世界の音楽、ネイル。

2018年1月のギフト

お泉美奈さんによるワッフル素材のシャツトップ、カワエさんが描くイラストのカード。お泉美奈さんが手がけたコースター、世界の音楽、ネイル。

2017年12月のギフト

お泉美奈さんによるワッフル素材のシャツトップ、カワエさんが描くイラストのカード。お泉美奈さんが手がけたコースター、世界の音楽、ネイル。

2017年11月のギフト

お泉美奈さんによるワッフル素材のシャツトップ、カワエさんが描くイラストのカード。お泉美奈さんが手がけたコースター、世界の音楽、ネイル。



個人的なことは政治的なこと

1960年代以降のアメリカにおける学生運動
および第2波フェミニズム運動におけるスローガン。

個人的な経験とそれより大きな社会および
政治構造との関係を明らかにしようとする言葉

Feminism is for Everybody

Passionate Politics

bell hooks

フェミニズムはみんなのもの

情熱の政治学

ベル・フックス

堀田 碧 訳

 etc.
books

フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学

ベル・フックス 堀田碧 訳

アメリカ20世紀後半のフェミニズム運動の流れを概観しながら、その運動の再生を願って書かれた名著。

フェミニズムとは、
「男性を敵視」した「女性だけのためのもの」ではなく、
「性差別をなくし、性差別的な搾取や抑圧をなくす運動」
である。

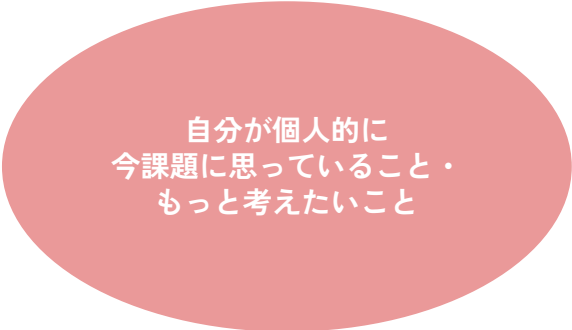
人種とジェンダーのこと、暴力をなくすこと、
女らしさや男らしさのこと、身体のことについて考えることは、
性差別だけではなく、人種差別や階級主義や帝国主義について
考えていくことにつながっていく。



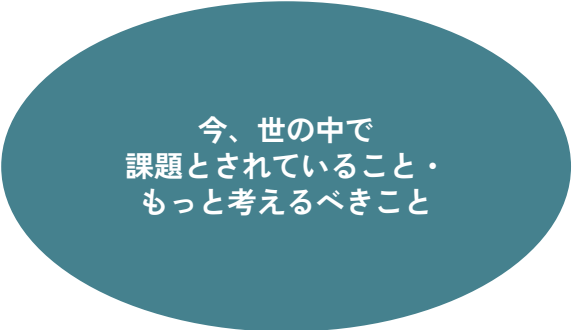
インターセクショナリティへの気付き

me and youの立ち上げ

会社・メディアを立ち上げるときに、
ホワイトボードを使って下記の内容を付箋を使いながら書き出しました。



自分が個人的に
今課題に思っていること・
もっと考えたいこと



今、世の中で
課題とされていること・
もっと考えるべきこと

個人的な出来事と、社会で起きていることは、決して切り離されない。

書き出していったうえで
「具体的なトピック」と「大切にしたい価値観」
が浮き彫りになってきました。

そのうえで、「大切にしたい価値観」を中心に
6つにまとめたのが、次ページで紹介する
「わたしたちの6つの灯火」です。

6つの灯火

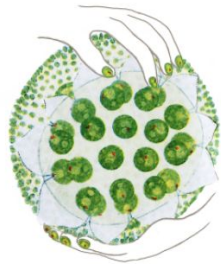
この場所を通して大切にしたいこと、考えを深めていきたいことを「6つの灯火」として掲げています。
この考え方に共鳴しあう方々と場をつくっています。

<https://meandyou.net/about/>



1. わたしとあなたで対話する

「個」と「個」の対話を重視します。社会に規定された枠組みや表面的な決めつけ、あるいは思い込みで他者をジャッジしそうになったら思いとどまりたい。相手を冷笑したり、脅かしたりせず、安心して話せる場所をつくりたい。物理的な距離に制限されず、属性をこえて、大切なことを話せるかもしれない「あなた」に出会えるように。



2. 自分を尊重する、他者の個も尊重する —凝り固まった概念に立ち向かう個人的な声に耳を傾ける—

一人ひとり異なる個人の声を尊重することが、大きな声や、どちらか一方に強制的に従わせるような概念に立ち向かうことだと考えています。そのためにも、自分と他者のどちらの声にも耳を傾けられる状況と関係を重視します。



3. 途中、過程、迷い、複雑さ、曖昧さの肯定

白か黒かのどちらかではなく、その間にある無数のグラデーションに目をこらしていきます。わたしたちは誰しもが変化する過程であるから、断定ではなく、可能性の発見を積み重ねたい。短期的ではなく中長期的な時間軸でものごとを捉えたい。複雑な世界を複雑なまま捉えることは、一人ひとりが自分自身のままで、居心地よく生きていくことにきつとつながります。



4. 問い直し、結び直していく

個人を苦しめる性質を持つ、凝り固まった常識や旧来的な制度やルール。既得権益によって変化が防がないものや、時代にそぐわない断定的なものの見方。それらをときほくして、硬直した関係や社会をゆるやかに結び直してゆきます。



5. 心を死なせず、手を取り、支えあい、 社会で生き延びる

生き抜く過程で、助けや支えが必要になる場面が、きっと誰にでも訪れます。もちつもたれつの精神で、手を差し伸べ、支え合う仕組みの在り方を探ること。ひとりでも入りやすく、居心地がよく、「この場所は自分にはもう合わない」と感じたら抜けやすく、そして別の場所が見つかるようなメディア・コミュニティをつくることができたなら、この場所だけが正解だと思ひ込むことなく、自分には選べる罪が無数にあるのだという心強さに包まれるはずです。



6. 自分の気づきを出発点に、少しずつは じめられる学びのかたち

日常で抱いた疑問や違和感をもとに、小さなことからでも一人ひとりが学びはじめるきっかけをつくります。金銭的／職業的理由などを問わず、誰もが「学びたい」「学んでいんだ」と思えるように。自らの気づきによって導かれた学びは、自分自身を柔らかに変化させ、得られた複合的な視点は変化し続ける世界を生きる味方になるのではないかと思います。

編集の姿勢として社内で共有していること

(me and you little magazine タグライン)

一人ひとりの小さな声に耳を澄ませ、自分の速度を大切にしながら、
この世界で生きることを編み直すためのメディアです。

「属性」で生き方を
決めつけられることへの違和感

【立場】
She isから
me and youへ

自分自身がマイノリティの立場にも
マジョリティの立場にもなることがある

<具体的な記事の落とし込み>

- ・誰もがこの社会の枠組みにおいては周縁化された存在になっている／なりうるという前提で発信
- ・自分がマイノリティの立場から発信する場合はどんな記事をつくるのか考える
- ・自分がマジョリティの立場から発信する場合はどんな記事をつくるのか考える...

小さな声、語られてこなかったこと、
聞かれてこなかった声に耳を傾ける

【態度】
「little」
って？

誰のなかにもあるかもしれない、「弱い」部分、心の奥底におしこめていた声はどこにある？

<具体的な記事の落とし込み>

- ・これまであまりメディアでは話す機会が少なかった人、表現する機会が少なかった人の言葉を届けていく
- ・著名な人であっても、これまで語られていなかったこと、「とるにたらないかも」となかったことにしていたようなことにも光をあてられる場に...

個人的なことと社会的なことは
つながっている

個人的な生活と社会的な運動をつなぐ
役割に

【バランス】
個人的なこと
と
社会的なこと

何かできること（日）もあれば
できないこと（日）もあるよね...

<具体的な記事の落とし込み>

- ・個人的な趣味、セルフケア、楽しみ...など自分を癒し、力をたくわえるための記事と、社会的なアクションにダイレクトにつながるような記事のバランスをみながらつくっていく
- ・一人の中の多面性を理解しながら発信を行う...